98 『ギャラリー・オブ・ファッション』 1794～1803　全9巻

Gallery of fashion, Apr. 1794—Mar. 1803, 9vols. in 3. London, N. Heideloff. 30.0×24.0cm
〈383. 133-G〉
Hiler p. 351　　Colas 1170　　Lipp. 4578

ファッション・ブックの先駆的役割りを果したもののなかには(**96**·**97**)と並んで本誌がある。しかも，これらのなかで最も優れた初期モード誌中の絶品との評判が高い。それはまさしく作者ハイデロフ（Hicolaus Wilhelm von Heideloff 1761—1839）に負っている。ハイデロフはドイツのシュトットガルトに生れた。家は代々画家で，すでに百年も経ている家柄だったから，彼自身も幼少から資質を磨く機会に恵まれた。彼のこの天性は時のヴュールテンベルクのカール・オイゲン侯に見出され，23歳の折にパリに出た。そしてそこで主にミニアチュールに没頭し，それによって生計を営むまでになった。当時のフランスでは貴族たちが好んでミニアチュールの肖像を描かせる慣しであったから，彼の仕事も次第に多忙になっていった。

だが，不運にもフランス革命は彼から顧客を奪い去ったため，彼はパリを去ってロンドンに移り，そこで彼はアッカーマンと知り合い，出版に関する有力な助言者となった。本誌がアッカーマン社から刊行されたのも，まさしくこうした事情によっている。初版はフランス革命後5年目の1794年で，彼が33歳の時であった。

図版はあらゆる点で18世紀の他のモード誌の群を抜いていた。描写の緻密さや整然たる印象もさることながら，アクアティント版の淡い色調と流麗簡潔な描線の，両者が完全に融け合ってかもし出す格調高い雰囲気は，到底他の及び得ない独自のものであった。(**97**)にみられる柔軟でしかも奔放な作風に比べれば，むしろ生真面なまでの生硬さが感じられるのは，ドイツ人気質の現れとみるべきなのだろうか。あるいは，両者間の相違をアンシャンレジームの衣装と，革命後の簡潔な衣装という様式の本質的相違に帰すべきなのだろうか。かつてデレやサントーバンの描いた美しい小刻みのひだ飾りやレースなどの衣装はすっかり影をひそめ，すべては白のモスリンやリンネルを基調にした古典的清純さにもどっている。デレらの作品は，それゆえ画家自らの空想が加味され，人々の興味もそこに注がれたのであった。

これに反し，ハイデロフははなはだ厳粛な眼をもって衣装に対応した。つまり，彼は予測的モードを加味した衣装を描こうとしたのではなく，忠実な衣装の記録を個々の図版に託したのであった。彼は出版予告の広告文にも次のように記している。「私の描こうとしているのは，想像ではなく現実の衣装なのだ。私は国民服としの英国婦人の衣装の集大成を，このなかで試みようと思う。」と。

この出版物は毎月2枚ずつ，年24枚のシリーズとして1803年3月まで刊行され，計217枚に及んだ。そして毎年の巻の初めには美しい扉が付されている。画面には当時の種々異った社会階層の人物が登場する。馬車に乗った夫人，ハープを奏でる娘，海岸で子供とたわむれる母親な

14図　朝の衣装３体　1795年　ハイデロフ作　**→98**

ど，人々の生活の場面がかぐわしいまでの雰囲気をただよわせた巧みな背景描写とともに登場する。この背景の効果は，のちの19世紀におけるモード誌のほとんどすべての作家たちに受けつがれ，定型化するに至った。

本誌については，発行部数や購読者についても今日ほぼ正確に知られている。それは予約販売制であったし，そのリストも残されているからである。それによると，発行部数はイギリス国内で347部，外国で67部であるから，計414部ということになる。第1巻にはイギリスの王族を始め，ドイツ皇后の名もみられ，第4巻にはジョージ3世妃，シャーロットやケント侯，エドワード王子の名も見える。

晩年のハイデロフについてはあまりはっきりしない。しかし，1799年以後の図版は当初の作風とはかなり異った傾向を示し，次第に生彩を欠き始める。おそらく不治の病にとりつかれたためであろうといわれている。それから四年目の春，ついに彼はこの企画を断念せざるを得なくなった。

その後の彼の消息はよくわからない。しかし，時折思い出したようにファッション・プレートの仕事は続けられていたようで，たとえば1808年にはエベン男爵の原画による24枚からなるアクアティント版の『スエーデン陸軍服装図集』が同じアッカーマンから出版されている。

7年後の1815年にはイギリスからオランダのハーグに移り，晩年の恵まれぬ生涯をこの地で終えた。とき78歳であった。(石山)